

広報

# こじがや

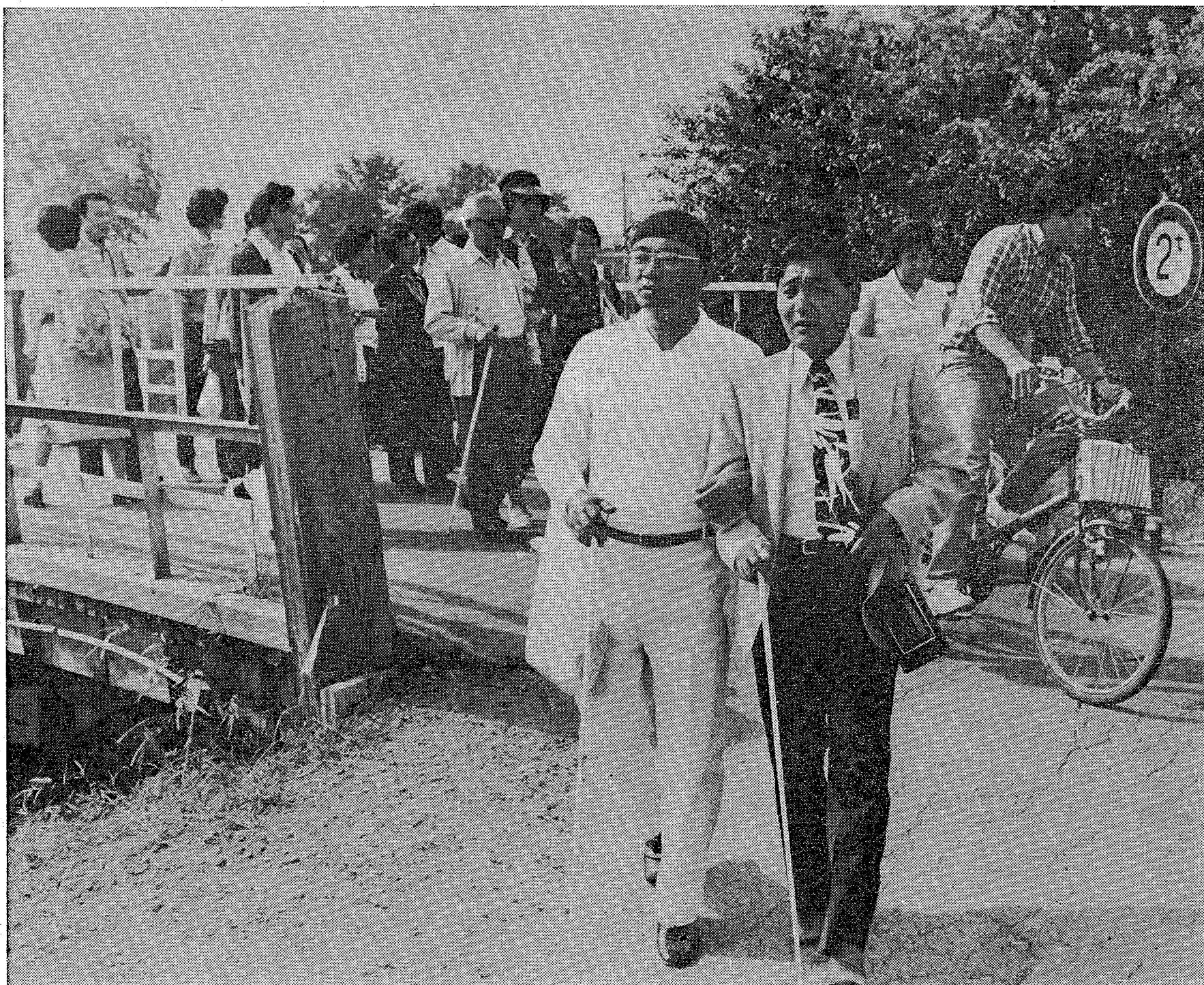
10月15日

昭和55年(1980) No. 627

編集

越谷市役所企画部広報課

昭和55年8月5日第三種郵便物認可  
毎月2回(1日・15日)発行



## 澄みきった秋空 にぎわう散歩道



これまでいた頃の家の周辺は樹木が生い繁り、竹林もあつたが、空気も澄んだ。いまは家数も増え、必然的に生活下水路化してしまった側溝もある。手つかみできぬほどの環境であった。

蛇やトカゲの太くて大きいのには、あわてたどもいまは懐かしさ

東京は本郷真砂町のアパートを引き上げ、この地に住居して里や一五年、当時まだ三歳だった長女もいまでは高校生。この地で生まれた長男も、来春は中学生になる。

越谷のまちの環境があつた。手つかみできぬほどの環境があつた。

この地に住居して里や一五年、当時まだ三歳だった長女もいまでは高校生。この地で生まれた長男も、来春は中学生になる。

今年の5月にできた緑の散策路(出津橋から上流へ2km)では、その沿道の風景を楽しみながら散歩する若者や家族連れで毎日にぎわっています。6日朝、ボランティア「声のおたより」の主婦7名が、運動不足の解消と健康づくりのためにと、日ごろ出かけることの少ない目の不自由な方との散歩の会を催しました。76歳のお年寄りを含めた一行16名は、澄みきった秋空のもと、文教大学前の出津橋からゴールの淨山寺までの約4キロの道程を歩きました。

### わが越谷の移り変わり

大成町二三四七 浜 村 昭一 (47歳)

暑い夜など、窓を開けた網戸から、武藏野線の快い走り音が聞こえてくる。また、距離にして一キロ少し行った先に見田方遺跡公園があるが、そこまで行く左右は田園と緑地で、どこで機団をとつても、そのまま緑である。私が住んでいる、通称「みどり田

地」東南側の環境である。

越谷のまちの環境があつた。

私が越してきてから驚いたことが二つあった。一つは駅と駅前である。なんと田舎の駅であったことが、駅前には、農協かなんかの倉庫がいつも戸

を締めた無駄無終の様で、暗かつた。あと二つは道路であった。当時の吉川街道はまだ舗装されていない。バスの走り去ったあと、土ぼこのひとつしたこと。特に自転車なんかでバスの後についたものなら、それこそ大変なことだった。貧乏市というより、大きな所へ越してきただものと不安の連続であった。

越谷のまちの環境があつた。

## 越谷とわたし

59 ◇◇

「越谷とわたし」は、あなたのコーナーです。みなさんの投稿をお待ちしています。字数は900字程度です。

## 市の人口

(昭和55年10月1日現在)  
(住民基本台帳)

前月比

総人口	22万1778人	152人増
男	11万1963人	91人増
女	10万9815人	61人増
世帯数	6万4348世帯	71世帯増

152人増

91人増

61人増

71世帯増









